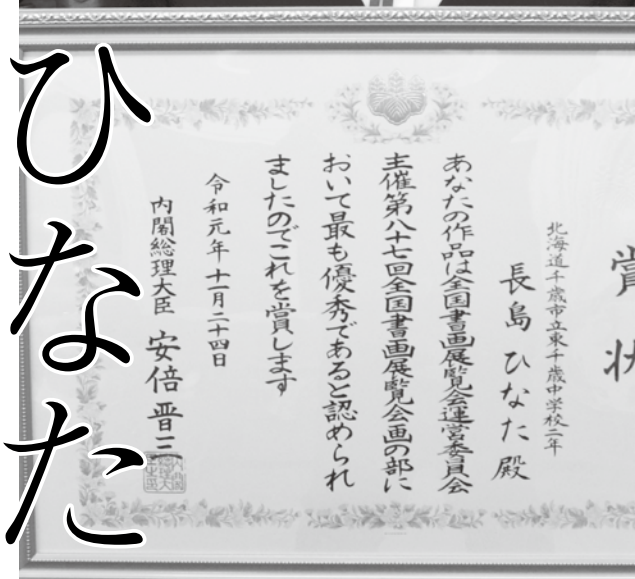
人のいる風景 people

長島 ひなた さん

ながしま・ひなた



第 87 回全国書画展覧会で内閣総理大臣賞を受賞した作品「学校の樹」

プロフィール

■長島 ひなた（ながしま ひなた）さん／14 歳／東千歳中学校２年生／中学校入学と同時に美術部に入部。顧問である竹津先生の指導をうけ水彩画を描いている。／「我ら海の子展」で金賞を受賞するなど、これまで数々の美術コンクールで入賞。

人のいる風景 people

内閣総理大臣賞を受賞した中学生画家の信念

「細かいところまで根気強く、丁寧に描く。」

全国書画展覧会運営委員会が主催する《第87回全国書画展覧会》において、東千歳中学校の長島ひなたさんの作品「学校の樹」が、内閣総理大臣賞に輝きました。

東千歳中学校では、これまでも、美術コンクールで文部科学大臣賞をはじめ数々の賞を受賞していますが、内閣総理大臣賞は初の快挙です。11月24日に広島県で行われた表彰式に参加した長島さんに、受賞の喜びをお聞きしました。

●受賞したときの気持ちは

「びっくりしました。これまでも、何度か賞をいただいたことはありましたが、1万点を超える規模の大きいコンクールはあまりなく、その中で1番をいただくことができたのは、とても嬉しいです。コンクール作品を描いているときは、普段と何ら変わらない気持ちで描いていました。違う点といえば、題材でしょうか…。これまでは、牛・馬などの動物や、船などを描いていましたが、今回は、樹や自然をメインにしました。」

●水彩画をはじめたきっかけは

「東千歳中は、生徒数が少なく、部活は卓球部か美術部しかありません。私は運動が苦手で、絵を描くのが好きだったので、迷わず美術部を選びました。そこで、本格的に水彩画を描きはじめました。水彩画は油絵と違い、やわらかい感じになる気がします。扱いやすいので、私は、水彩画が1番好きです。東千歳は、自然が豊かで、水彩画の題材になる動物や小屋なども多いので、環境に恵まれていると思います。」

●作品に込めた思いは

「今回描いたこの樹は、校庭にあるカシワの樹で、65年前の学校建設のときに切る予定でしたが、土地を寄贈してくださった方の要望で残され、いまも大切にされている樹です。作品づくりの多くは、写真を見ながら美術室で行います。今回も先輩が撮影した写真を見ながら描きました。いろんな構図の写真がありましたが、木全体ではなく、根っこにフォーカスした写真に惹かれました。実際は、昼間に撮影されたものですが、フェンスなどの人工物を隠して、樹を目立たせるために、夜の絵にアレンジしました。樹のまわりにいるホタルも、樹を目立たせるために描き足しました。絵を描くときにいつも大切にしていることは、細かいところまで根気強く、丁寧に描くことです。細部までこだわったことで、長年、学校が大切に守ってきた樹の生命力を表現できたと思います。」

◇　◇　◇　◇　◇　◇

竹津先生は、「中学生で夜の絵を描く子はあまりいません、視点もユニークで、樹の質感を出す技術も高い」と話します。

絵の具がついた両手をいっぱいに広げ、「今後は、このぐらいの紙に描いてみたい」と、嬉しそうに話す長島さん。笑顔の中に時折見せる凛とした表情からは、絵に対する純真な思いが感じられます。